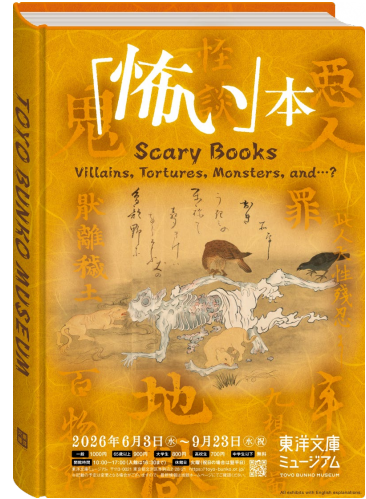


東洋文庫ミュージアム 企画展 「怖い」本



会期：2026年6月3日（水）～9月23日（水・祝）
会場：東洋文庫ミュージアム
主催：公益財団法人東洋文庫

本展では、「怖い」という言葉から連想される様々なテーマで資料を展示します。恐ろしい死後の世界や、災いを引き起こす人ならざるものたち、悪人と呼ばれる人々、さらに、人が起こした事件や拷問まで……。怖さを感じさせる要因は時代や地域ごとに移り変わってきました。人々が怖さに向き合い、乗り越えてきた歴史に触れて、改めて「怖い」を考えていただければ幸いです。



メインビジュアル

ミュージアム講演会

「進化する怪談」

講師：楊逸氏（作家、日本大学芸術学部教授）
日程：6月27日（土） 14：00～15：30

「怖い本 怖くない本」

講師：京極夏彦氏（小説家、印刷博物館館長、日本推理作家協会 監事）
日程：8月8日（土） 14：00～15：30
※演題は変更となる可能性があります

ミュージアムワークショップ

こわいナイト・ミュージアム

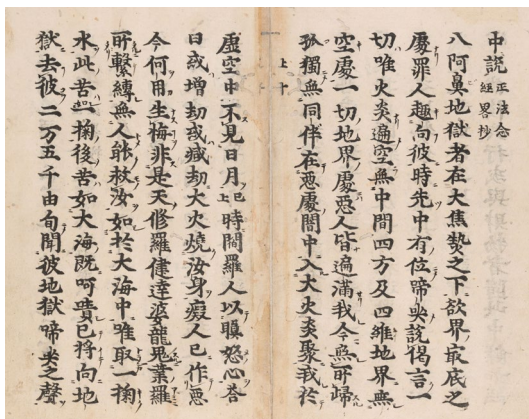
ー 講談で聞く怪談ばなしー
出演：神田山緑氏（講談師）

日程：8月1日（土） 17：00～19：00

展示構成とみどころ

1、あの世の世界

この世で悪い行いをした人が、死後に責め苦を受ける地獄のイメージは、日本では主に仏教の影響で形作られました。『往生要集』によれば、人は生前の行いにより地獄を含む「六道」のいずれかに転生します。この世での行いを戒める、恐ろしいあの世の世界をご紹介します。

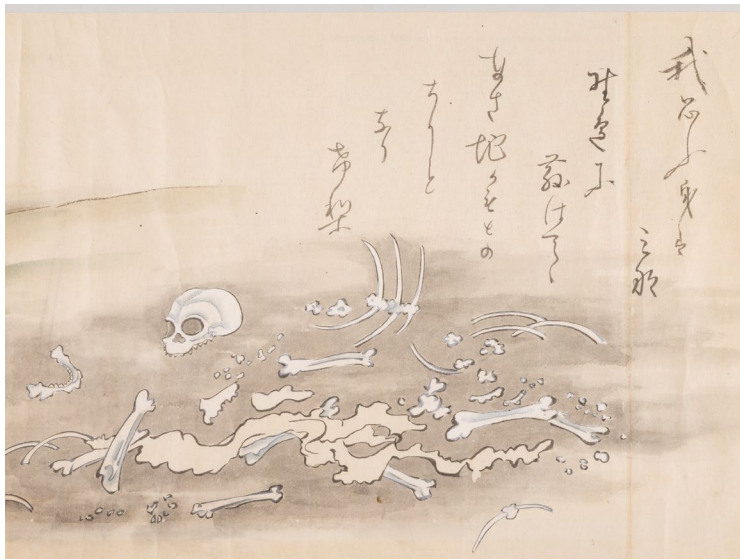


おうじょうようしゅう

1. 『往生要集』

源信 985年成立 1210年刊

比叡山中の寺院の僧、源信が經典などから、死後に極楽へいく事（往生）に関する文章を集めた仏教書です。地獄についても、「八大地獄」をはじめさまざまな罰が与えられる場所として詳しく描写されています。



II. 『九相図巻』

鎌倉時代成立か 書写年不明

本書は、野外に置かれた遺体が朽ちる経過を九段階に分けて描いた仏教絵画です。人の美しさが常ならないことを示し、仏僧の色欲を絶つ修行に使われたとされます。

2. 日本の怪奇

古代の日本では、強い怨みを持って亡くなった人は怨霊となり、災害や病気を引き起こすと考えられていました。災いの原因を人ならざるものに託し、その祟りを避けるため怨霊を鎮める儀式が行われました。近世になると、人ならざるものは、実在しない滑稽な存在と見做されるようになっていきます。死霊も化け物も妖怪としてキャラクター化され、図鑑や草双紙、玩具の題材として人々を楽しませました。人ならざるものは怖い？怖くない？それぞれの考え方を辿ります。



III. 『菅家物語』

室町時代成立 江戸時代前期（17世紀）写

すがわらのみちざね

菅原道真 (845-903)は、その才覚で宇多天皇らに重用されながら、周りの妬みにより京から太宰府へ左遷されてしまいます。本書は、道真が太宰府で亡くなった後、雷神となって京で災いを起こしたため、鎮魂のために天神さまとして祀られるというお話です。



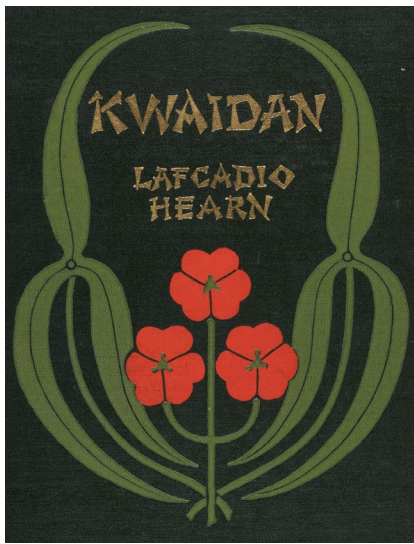
IV. 『絵本百物語』

桃山人撰 竹原春泉画

1841年

とうさんじんやわ

『桃山人夜話』とも呼ばれ、40種以上もの妖怪が滑稽かつ繊細に描かれた、妖怪図鑑のような怪談本的一种です。題名の「百物語」とは、人々が夜に集まって100種の怪談を順に語り、100番目の話を終えると妖怪が現れるとされた遊びのことで、江戸時代に流行しました。

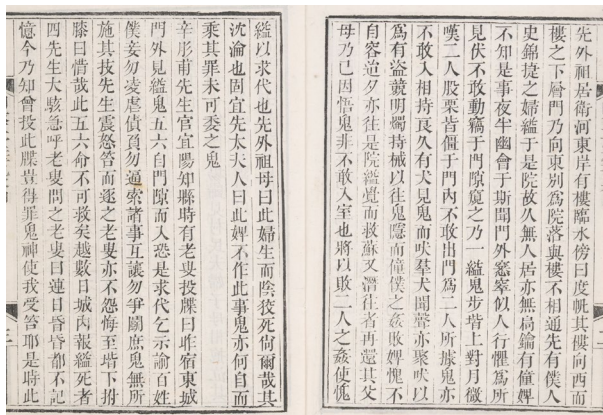


くわいだん
 V. 『怪談』
 ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）
 1914年 ポストン刊

著者の小泉八雲はギリシャ生まれのイギリス人で、アメリカの新聞記者でしたが1890年来日し、のちに日本国籍を取得しました。耳なし芳一、ろくろ首、雪女をはじめとした、17篇の短編と3篇のエッセイが掲載されています。

3、アジアの怪奇

不思議な存在が不可解な現象を起こすという考えは、日本だけではなくアジア各地に根付いています。例えば、「飛頭蛮」という妖怪は、夜になると頭が胴体から離れて空を飛ぶ妖怪として古くから各地で知られていました。一方、中国に伝わる首吊り幽霊のように、ある地域だけのユニークな伝承もみられるのも面白いところです。

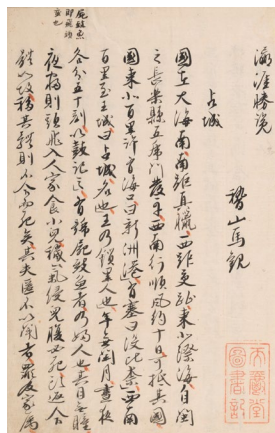


えつびそうどうひっき
 VI. 『閱微草堂筆記』
 きいん
 紀昀 1789-1800年頃 1816年刊

18世紀清代中国の知識人、紀昀（1724-1805）が編纂した志怪小説で、空想を排し簡潔な文体で市井の事件や怪談・奇談を記しました。

図版部分に記されたエピソードのあらすじ

著者の祖父の邸宅には一つの楼がありました。庭で召使の妻が首を吊る事件があって以来、誰も住む者がいませんでした。ある召使の男女がそれを知らず、深夜そこで密会していたとき、外で人の気配がしました。隙間から覗くと首吊り幽霊（中国語は縊鬼）の姿がありました。幽霊は犬に吠えられ姿を消しましたが、召使たちの密会は露見。女性は恥ずかしさのあまり何度も庭で首を吊ろうとし、実家に帰されて、首を吊るのを止めました。中国では、首吊り幽霊や溺死の幽霊（中国語は溺鬼）など、非業の死を遂げた幽霊は成仏するために生者を死へ誘うと考えられていました。



えいがいしょうらん
 VII. 『瀛涯勝覧』
 ばかん
 馬歡撰 1416年序

チャンパー（現・ベトナム）の屍致魚（飛頭蛮）は、目に瞳がなく、眠ると頭が体から離れて飛んで子供に食いつき、食いつかれた子供は気に侵され死んでしまいます。東洋文庫所蔵本は、新井白石による写本と伝わります。

3、虐げる・裁く・衝突するー人が生む恐ろしさー

16世紀末以降の日本で起きたキリスト教信者の殉教は、当時のヨーロッパキリスト教社会では大きな信仰の証として評価されました。しかし信者でない人々や現代の私たちの価値観から見ると、拷問や処刑の様子には強い恐ろしさを感じられ、特定の宗教を信じているだけで命を奪われることに理不尽さを感じます。また「人権」が意識される以前の刑罰には、身体に直接苦痛を与えるものが多く存在し、残酷な拷問が行われることもありました。過去の社会では、当時の価値観のもとで正しいとされた行為でも、現代の私たちの目には、恐ろしく感じられるものばかりです。これらの資料は、人がつくってきた歴史の一側面を今に伝えています。



VIII. イエズス会士書簡集
1780-83年 パリ刊

アジアを中心に世界中で広く布教活動を展開したイエズス会士の書簡報告（17世紀末-18世紀後半）をまとめたものです。図版は1737年のトンキン（現・北ベトナム）におけるイエズス会士の殉教の様子です。



IX. 石川村五右衛門物語
富川房信 1776（安永5）年

石川五右衛門は、安土桃山時代（16世紀）に実在したとされる人物で、盗賊団の首領として捕まり処刑されたことが知られています。本書は、京都の河原で釜茹での刑に処されるという壮絶な最期を描いています。

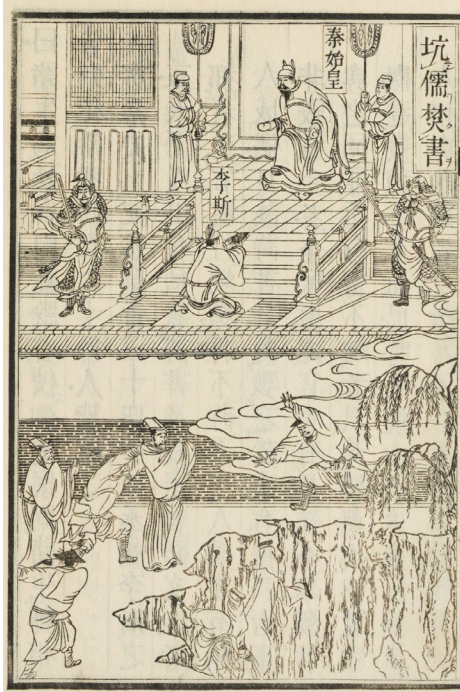


X. 『アヘン吸飲者とばくち打ち』
ハリー・ダレル 1842年

アヘンの売買と吸引の場所を提供する中国の「アヘン窟」の様子を、イギリス海軍の画家が描いた図です。アヘンは古くから鎮痛剤などの薬として用いられてきましたが、強力な依存性があり次第に心身が衰弱していく麻薬です。中国では宮中にも中毒者が出るほど広まりました。

5、悪人の実像

歴史上の『悪人』は、本当に悪だったのでしょうか。政治的な分裂や反乱の中では、とりわけ目立つ人物が現れ、新しい政治勢力が成立する過程で、対立する側の人物は「悪役」として語られることになります。また、後世になって人々への戒めや教訓とするために、人物像が誇張され、「悪人」として描かれることもあります。本章では、さまざまな視点や事情の中で形づくられてきた「悪人」の虚像と実像に迫ります。



ていかんずせつ
XI. 『帝鑑図説』

張居正 1572年成立 1858 (安政5) 年刊

始皇帝が「暴君」であるとのイメージは時代がくだってついたものです。これには儒者による評価が大きく影響しています。

「焚書坑儒」は、一般に始皇帝による儒者弾圧事件として知られ、本書でも悪行として紹介されています。しかし、漢代の歴史書『史記』には「術士を坑す（穴埋めにする）」と書かれており、術士は方士なのではという議論もあります。

6、災害・病気と向き合う

かつて、流行病や自然災害のような、人の力ではどうにもできない災いに直面したとき、人々はその事実を記録に残すだけでなく、鬼や妖怪などの姿をした「人ではない何か」に原因を求めました。ここでは、辛い境遇にある人々のやり場のない怒りや不満を受け止める役割を果たした「怖い」をご紹介します。



XII. 『流行病風刺絵』のうち

「諸人麻疹退治之図」

歌川芳盛 1862 (文久2) 年

近代的な医療が確立していなかった江戸時代、伝染病は命を落としかねない危険な病として人々から恐れられていました。この浮世絵は、病除けとして作られた「はしか絵」の一つです。中央の擬人化された麻疹が人々から懲らしめられている姿を描いています。

広報用画像のお申し込みについて

<画像使用全般に関してのご注意>

- 本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後はデータの廃棄をお願いいたします。
- 企画展名、会期、会場、画像・クレジット（所蔵先）は必ず記載してください。
- 転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。
- Webサイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施し、「画像の無断転載を禁じます」旨を表記してください。
- 基本情報、画像使用などの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階のものを担当者にお送りください。
- 掲載・放送後は必ず掲載紙（誌）、同録DVDを担当者までお送りください。

<広報画像クレジット一覧>

（1点のみ掲載の場合）公益財団法人東洋文庫蔵

（2点以上掲載する場合）すべて公益財団法人東洋文庫蔵 を必ずご記載ください。

<広報用画像一覧>※画像は本文をご覧ください

番号	クレジット
<input type="checkbox"/> I	『往生要集』 源信 985年成立 1210年刊
<input type="checkbox"/> II	『九相図巻』 鎌倉時代成立か 書写年不明
<input type="checkbox"/> III	『菅家物語』 室町時代成立 江戸時代前期（17世紀）写
<input type="checkbox"/> IV	『絵本百物語』 桃山人撰 竹原春泉画 1841年
<input type="checkbox"/> V	『怪談』 ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 1914年 ポストン刊
<input type="checkbox"/> VI	『閱微草堂筆記』 紀昀 1789-1800年頃 1816年刊
<input type="checkbox"/> VII	『瀛涯勝覧』 馬歡撰 1416年序
<input type="checkbox"/> VIII	『イエズス会士書簡集』 1780-83年 パリ刊
<input type="checkbox"/> IX	『石川村五右衛門物語』 富川房信 1776（安永5）年
<input type="checkbox"/> X	『アヘン吸飲者とばくち打ち』 ハリー・ダレル 1842年
<input type="checkbox"/> XI	『帝鑑図説』 張居正 1572年成立 1858（安政5）年刊
<input type="checkbox"/> XII	『流行病風刺絵』のうち「諸人麻疹退治之図」 歌川芳盛 1862（文久2）年
<input type="checkbox"/>	メインビジュアル

上記資料画像を広報素材として提供いたします。

下記のURL、またはQRコードよりお申し込みください。

URL：<https://forms.gle/Kn31qEecFUqAKiqy8>

QRコード



（TEL）03-3942-0272 （E-mail）y-yokote@toyo-bunko.or.jp 担当者：普及展示部 横手